

噴火湾環境情報 NO.1

2017/10/16

津軽暖流の湾内流入量は平年並!!

道総研函館水産試験場
調査研究部
担当: 西田, 渡野邊

2017年9月11～13日にかけて、噴火湾及びその周辺海域の環境調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。深度10m、50mにおける水温、塩分の水平分布を図1に示します。湾内の水温は、深度10mが19～20℃で、平年よりも約1～2℃低くなっています。50m深水温は8～13℃で、平年よりも豊浦沖で2℃高く、森沖で約2℃低くなっています。湾内の塩分は、深度10mが全域33以下になっており、湾内表層には津軽暖流水の分布はみられません。50m深塩分は、湾口中央部と湾中央部の湾口寄りが33.6以上(津軽暖流水の指標塩分)となっており、湾内中層では、津軽暖流水がパッチ状に分布しています。

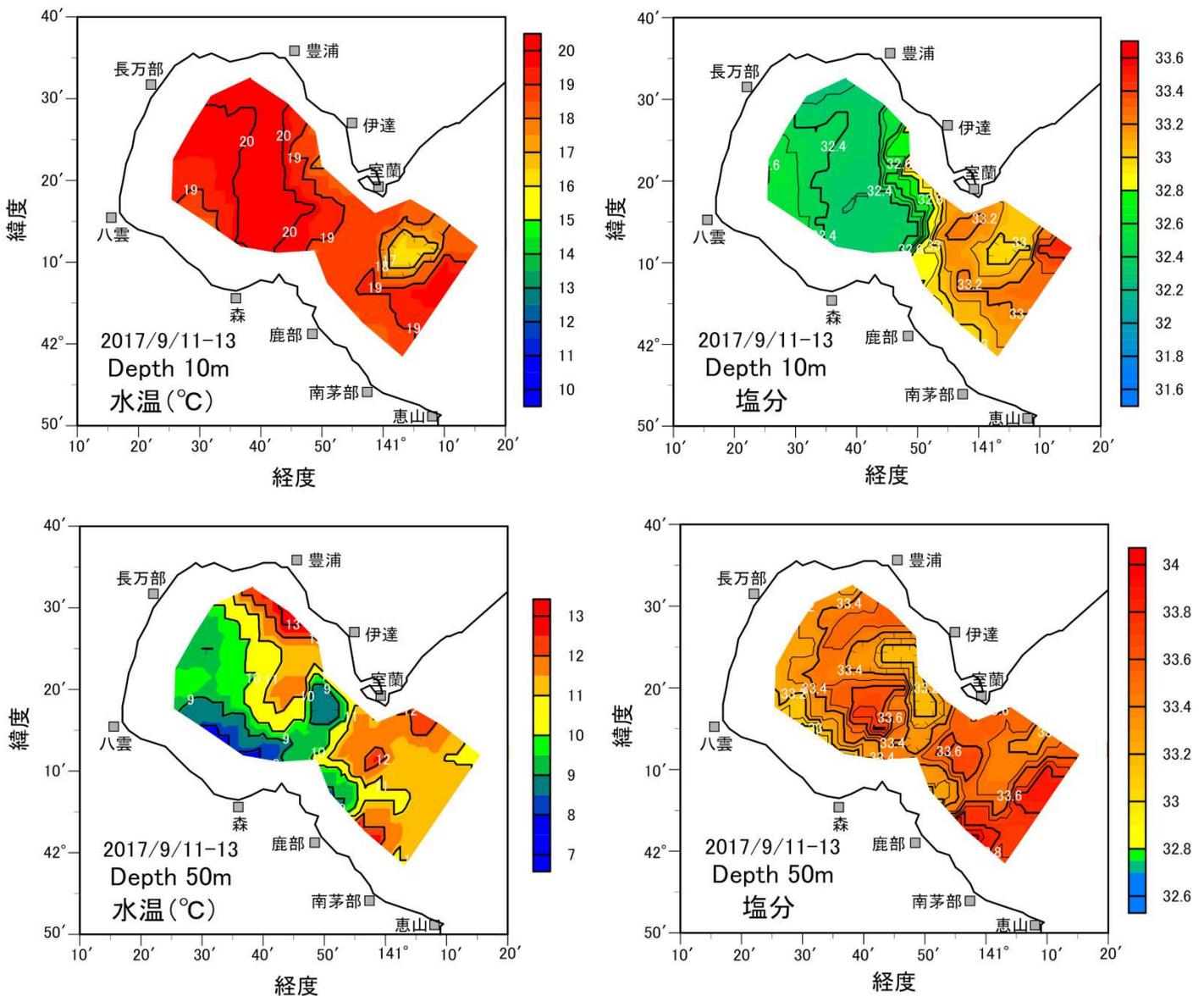


図1 噴火湾およびその周辺海域における(左)水温と(右)塩分の水平分布

噴火湾における水塊の占有率を図2に示します。津軽暖流水の湾内占有率は約10%であり、暖流の湾内流入量はほぼ平年並です。

噴火湾底層の溶存酸素量は、長万部沖で3ml/l以下になっており、貧酸素水塊の形成がみられます(図2)。

湾内外の流速ベクトルの水平分布を図4に示します。例年初夏から湾内には時計回りの渦が形成されますが、今回の観測では渦は形成されていませんでした。胆振側にみられる時計回りの流れは、東風に起因して一時的に生じた流れと考えられます。湾内中層では湾口部渡島側から湾外へ流出する流れがみられます。一方湾外では、比較的強い反時計回りの循環がみられます。

次回の調査は12月を予定しています。

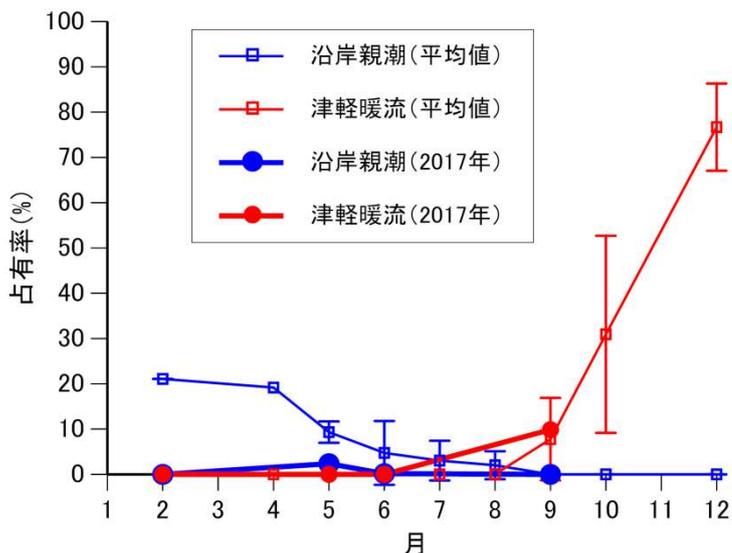


図2 噴火湾における沿岸親潮, 津軽暖流水の占有率

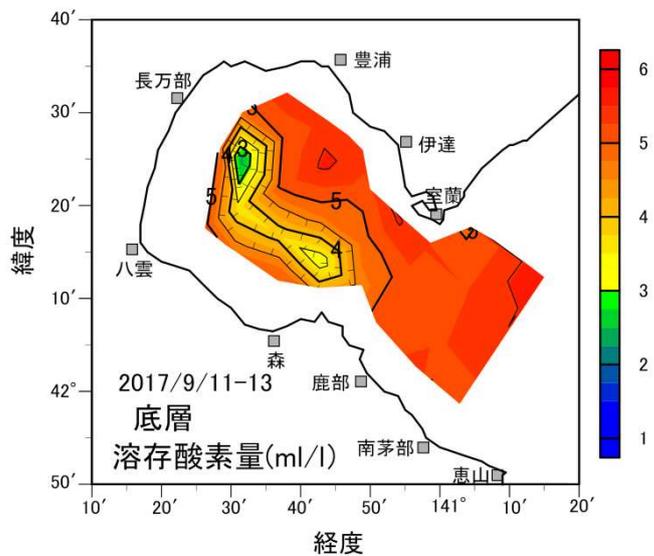


図3 底層の溶存酸素量

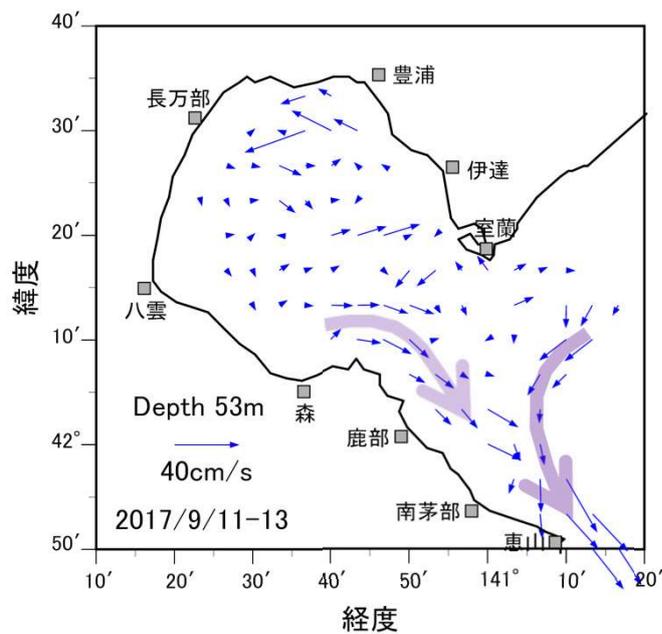
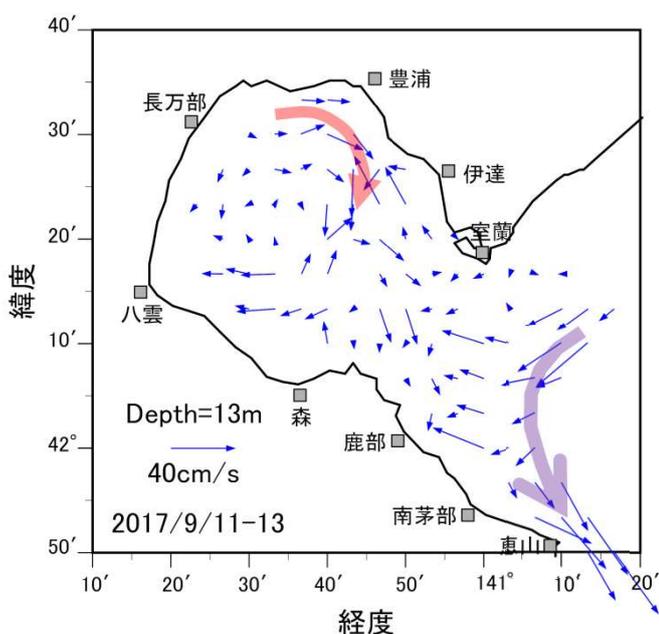


図4 流速ベクトルの水平分布